

かかりつけ医向け研修の推進に向けた 日本医師会とジョスリン糖尿病センターの連携について

国が推進する糖尿病腎症重症化予防は、わが国の健康寿命の延伸に向けた大きな課題のひとつです。そのなかで、1000万人と言われる糖尿病が強く疑われる国民に、初期の段階から最適な治療を行うことは、我々医療者の重要な役割です。日本医師会では、かかりつけ医の日常診療の向上に向けたさまざまな事業を実施しておりますが、その取り組みの一環として、糖尿病の研究・診療・教育に関する世界的リーダーである米国ジョスリン糖尿病センター（ハーバード大学医学部付属）と連携し、かかりつけ医向け糖尿病研修を実施することとしました。

本研修プログラムは、糖尿病を専門としないかかりつけ医向けにジョスリン糖尿病センターが開発した教材をもとに、日本の専門医が参画して、日本向けに作り直したものです。プログラムは計2回の研修会で、参加者は自院の症例を持ち寄り、参加者全員で糖尿病診療向上のためのプラン作成と実施・検証を行います。すでに、わが国の4箇所でトライアルが実施されています。研修参加者は、日本医師会が構築・管理している糖尿病レジストリ「日本医師会かかりつけ医糖尿病データベース研究事業（J-DOME）」に症例登録いただき、診療の向上に向けて役立てて参ります。

今後は、開催に関心のある地域において、地域の医師会、糖尿病対策推進会議と連携し、参加希望のかかりつけ医に向けて研修を実施していくこととなります。多くの参加者を得て、糖尿病診療の向上と重症化予防につながることを期待しています。

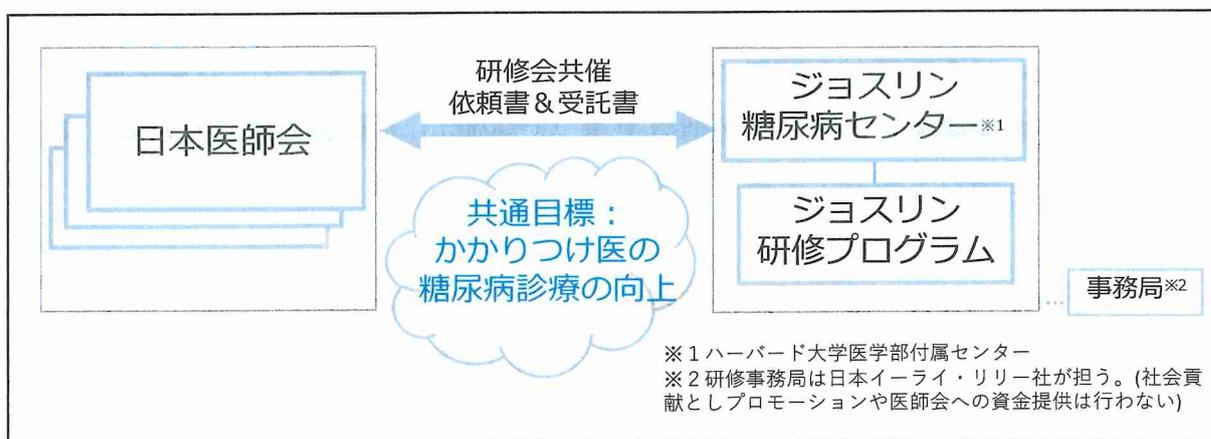
かかりつけ医向け研修の推進に向けた 日本医師会とジョスリン糖尿病センターの連携 概要

日本医師会は会員の糖尿病診療の向上に向けて、ハーバード大学医学部附属機関であるジョスリン糖尿病センターと連携して研修会を実施する。

ジョスリン糖尿病研修会とは

- 糖尿病非専門医の糖尿病診療の向上を目指して、ジョスリン糖尿病センターが開発。日本の糖尿病専門医も開発に参画
- 25名～の非専門医を対象に計2回開催する。参加施設の看護師も併せて参加可能
- 自院の症例を提出し、参加者同士で議論しながら、糖尿病診療向上のためのプラン作成と実施・検証を行う
- 国内外の糖尿病専門医が講師を務める
- 日本での開催実績はあり、参加者から高い評価を得ている

連携の概要



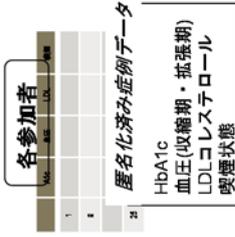
- 日本医師会は、都道府県医師会への研修会の周知と協力依頼を行うとともに、申請に基づいて日医生涯教育の単位を付与する。
- 参加者の症例登録にあたっては、日医のかかりつけ医糖尿病レジストリ (J-DOME) に登録し、症例データは J-DOME が管理と分析を行う。

【参考】研修の具体的なイメージ

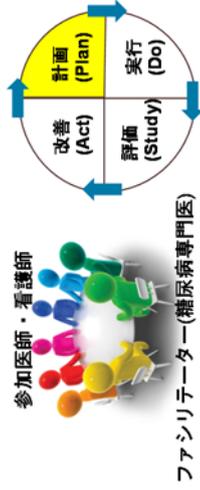
ワークショップの主な流れ

第1回ワークショップ

- 講義：「医療の質の向上」の概念と実践方法
- 各施設での糖尿病診療の特徴と課題の抽出



- 課題克服のための方策を立てる



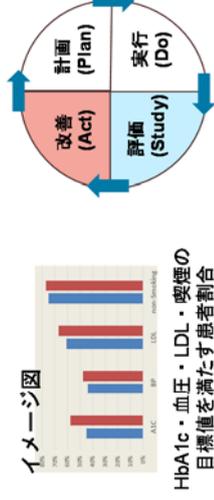
各施設での方策の実践



数か月(3-6ヶ月程度)

第2回ワークショップ

- 第1回ワークショップで立てた計画の評価とさらなる改善策の立案



- 第1回ワークショップとは異なる臨床指標についても同様に課題克服の方策を立てる
- 2回のワークショップ修了者には、ジンスリンハード大の修了証を授与

* 第2回ワークショップ終了後は各施設での継続した「医療の質向上」活動が期待される